

特に印象に残っているのは、様々な粘土の性質の違いを実際に触って、肌で違いを感じ、作品を作ることができたことです。実際に触ってみないと、ちょっとした性質の違いを感じることが出来ないですし、様々な種類に触る機会など、この先ないかもしれないので、とても良い経験になったと思います。

また、毎回の授業で芸術家について学ぶ時間があったので、より芸術に親しみがわき、知識を得ることができました。作品を作る前には、先生が実践して説明やお手本を見せてくれたので、分かりやすく、先生がミスをするツツコミをいれたりなどして、説明の時間でさえ楽しい時間でした。

毎回の授業を楽しみにしている学生が多く、そう思わせてくれたのは、江村先生の人柄と才能だと思います。先生としての技術やセンスが抜群なのはもちろんですが、先生というお立場なのに親しみやすく、子ども心を忘れていらっしやらない先生の授

業だからこそ、楽しく受講できたのだと思います。



(左から2番目が田中さん)

わたしたちの先生を紹介します

笹谷朋世先生

子ども発達学科保育専修3年

吉澤涼夏 (よしざわ すずか) 長野県・篠ノ井高校出身
今回はとってお世話になっている笹谷先生の紹介をしたいと思います。笹谷先生は、とてもやさしくて、生徒の気持ちに寄り添って物事を考えてくれます。そして、いつも笑顔を決やさないで、ゼミ生全員もきっと私と同じように和みつつゼミに臨んでいると思います。

先生は、音楽が大好きなのだと思えます。音楽をしている時の先生ほど、幸せそうな顔をしているときはありません。即興で音楽を考えてくれることがあるのですが、嬉しそうに考えていらして、本当に心の底から音楽を愛していらっしやんだなと思いました。こうした姿を垣間見せていただける先生のおかげで、こちらまで音楽が好きになれそうな気がします。音楽の楽しさ、すばらしさを、先生ご自身から発信されていると思います。

また先生は、大学のお仕事の他に、乳幼児向け絵本の歌を歌うお仕事もされています。全国の子どもたちが、先生の声で楽しんだり癒されたりしているのだと思うと、そのような先生のゼミに入れたことをうれしく思います。本当に歌がお上手で、聞かせてもらうたびに感動してしまいます。

先日ゼミ生全員で、東京で行われたオルフ音楽教育研究会セミナーに参加させていただきました。音楽のセミナーということもあって、やはり最初は重々しく、「座学」を行うようなイメージでした。ですが参加してみると、音楽がもともと好きなゼミ生、反対に苦手と思っていたゼミ生さえも含め、全員が「楽しかった」「参加してよかった」といった感想を述べていました。音楽は堅苦しいだけではないということ、先生のご指導を通じて知ることが出来ました。また、保育士を目指すに当たり、子どものために何をしていくことが大切なのか、どんなことが子どもにとっての楽しさ、成長なのかを教わることが出来ました。保育を学ぶ学生として、本当の意味で学びが深くなったと思います。実習に向けて、どんな事が出来るのかという選択肢も広がりました。



私自身、笹谷先生なしでは音楽に対する苦手意識を取り払うことが出来なかったと思います。これからの活動も楽しみです。

齋藤一晴先生

子ども発達学科学校教育専修3年

田中朱美 (たなか あけみ) 長野県・長野市立長野高校出身
田中奈々未 (たなか ななみ) 愛知県・豊橋南高校出身
吉岡海 (よしおか かい) 愛知県・美和高校出身
私たち3人は、齋藤ゼミに所属しています。今年着任したばかりの先生にインタビューしてみました。Q.何月生まれですか？ A.8月のおとめ座で、卯年です。Q.血液型はなんですか？ A.O型です。Q.趣味はなんですか？ A.旅行です。Q.どこによく行きますか？ A.中国によく行きます。Q.なぜ中国によく行くのですか？ A.現代中国を見るのが好きだからです。Q.専門分野はなんですか？ A.「歴史対話」です。Q.具体的にはどのような内容ですか？ A.戦争や紛争といった対立を緩和して、他者や他国への敵愾心を取り除くために共同歴史教材を作成、各国で活用することを試みています。Q.来年度は何がしたいですか？ A.来年度は学生に中国や韓国の学生と直接交流する機会を設けたいです。Q.来年度の意気込みを教えてください。A.他のゼミと交流したいです！ Q.来年度のゼミ生へ何かメッセージはありますか？ A.3人でゼミのすべてを取り仕切る、たくましい先輩たちが待っています！

次に先生を知るうえで欠かせないゼミの様子も紹介します。ゼミは今年度から始まったばかりで、ゼミ生は3人と少ないですが明るく楽しく活動しています。活動内容としては、各国の歴史教科書の記述比較をしたり、多国間で作成された共同歴史教材の編集過程から歴史認識の違いについて学んだりしています。ゼミ生がローテーションで調べたことについて発表し、それについて先生や他のゼミ生から質問や意見を受け、分からないことはさらに調べたりすることで理解を深めていくことができます。

まだ始まったばかりのゼミなので活動内容は少ないですが、これから長期休暇などを利用して、実際に中国や韓国の学校にフィールドワークに行ってみたり、国内でも「戦争と平和の資料館 ピースあいち」など行けるところからどんどん見学しようと話し合っています。

来年度は、上記のことに取り組んでいきますが、どう進めていくかは相談しながらです。今年1年で齋藤ゼミに、3人で色をつけていきます！ 大人数で何が出来るのか全く想像がつかないので、グループでどんなことができるか、今できない活動を来年度はやっていきたいですし、飲み会も随時やっていきたいです！



第19号 2018年3月1日発行

この号の主な内容

・ゼミ活動紹介 瀬地山ゼミナール	1	・教育実習体験記 特別支援学校実習	3
・就職活動体験①		・就職インターンシップ体験記	
・就職活動体験②		・わたしたちの授業を紹介します 乳幼児の造形演習 I	4
・保育実習体験記 保育所実習	2	・わたしたちの先生を紹介します 笹谷朋世先生、齋藤一晴先生	
・教育実習体験記 小学校実習			

ゼミ活動紹介

瀬地山ゼミナール

心理臨床学科障害児心理専修4年

山下鮎美 (やました あゆみ) 愛知県・鶴城丘高校出身

瀬地山葉矢先生は、病院臨床(精神科)と保育園を主な臨床のフィールドとし、乳幼児とその家族への臨床心理学的介入と親子の関係性の相互過程を研究テーマとしている先生です。大学だけでなく、病院で臨床心理士として勤務したり、名古屋市の障害児保育スーパーバイザーとしても活躍されています。瀬地山ゼミでは『親子・家族・関係性の発達・子育て支援・臨床心理学』をキーワードとし、臨床心理学的視点から親と子・家族について考え、学ぶことを目的としています。学校教育専修1人、心理臨床専修6人、障害児心理専修3人の計10名で活動をしています。男3人、女7人と男女比が偏っていて、専修もバラバラですがみんな仲がよくて和気あいあいとした雰囲気です。

3年前期は瀬地山先生が育児休暇に入っており、高橋靖子先生が担当してくださいました。『ルポ 児童虐待』をゼミ生で役割分担して読み進め、意見交換をしながら児童虐待についての理解を深めました。後期からは、2グループに分かれて父子家庭の子育てについてなど、それぞれが関心のあるテーマについて調べ、まとめたものを発表し意見を出しながらそのテーマについて学んでいくグループワークを行いました。4年次に入ってから

は、卒業論文の完成に向けて、それぞれが関心のあるテーマについて文献調査や先行研究の読み込み、質問紙の作成などを進め、ゼミ内での発表や草稿提出を重ねています。意見を出し合う場面では、自分の意見を上手く言葉にできないことが多かったのですが、瀬地山先生も高橋先生もそれを否定することなく、グループワークが上手く進むよう助けてくださいました。卒論の草稿発表では、私たちの興味や考えを尊重してください、心理的な視点からの的確なアドバイスをしてくださいました。

卒論の提出まで半年となりました。これからもたくさんの意見交換を重ね、また瀬地山先生の手も借りながら、卒業時に達成感を味わえるようなゼミ活動を続けていきたいと思っています。



就職活動体験①

子ども発達学科学校教育専修4年

山城健之伸 (やましろ けんのしん) 富山県・富山南高校出身

私は富山県、神奈川県、神戸市の教員採用試験を受験し、合格することができました。受験するにあたって頑張ったことは、筆記試験対策と面接試験対策です。筆記試験対策では、朝から晩まで大学の自習室にこもり勉強に励みました。面接試験対策では、同じ教員採用試験を受ける仲間同士で、試験官役と受験生役を入れ替わりながら練習に励みました。学生同士での練習の他にも、大学の先生方や学修アドバイザーの方に試験官役をやって頂き、本番同様の手順で緊張感を持ちながらの練習も行いました。お盆休みも大学を開けて頂き試験の日まではほとんど毎日、学校へ通い仲間と共に勉強と練習を重ねました。

就職活動中はプレッシャーや焦りから息が詰まることや、勉強や練習が煮詰まることもありましたが、そういう時は、友達とご飯へ行ったり、映画を見たり、アルバイトをしたりなど息抜きをしてい

ました。また、自分が合格して家族や友達が喜ぶ姿を想像してみることも自分のモチベーションを高めるために行っていたことです。

自分が合格できたのは、共に教員採用試験を頑張った仲間や先生方、家族、アルバイト先の皆さんなど応援して下さった方々のおかげだと思っています。自分に驕らず、常に謙虚な姿勢でこれからも精進したいと思います。



左:山城健之伸さん
右:ゼミの同輩の
山崎将成さん

就職活動体験②

心理臨床学科心理臨床専修4年

森岡美緒（もりおか みお） 愛知県・名経大市邨高校出身
将来、地域に貢献できる仕事がしたいという想いで、就職活動を始め、地域の金融機関と日本郵政から内定をいただきました。郵便は私たちが生活していくうえで欠かせないものであり、地域ともかかわることができるため、やりがいを感じ、最終的に日本郵政に就職することに決めました。就職試験では、図表を見て解答する問題が出ましたが、心理統計法を学んでいたため、落ち

着いて解答することができました。面接では、企業の理念やその会社でしか行っていないこと、興味のある活動などに着目し、箇条書きにまとめて、面接で言葉にしていきました。卒業研究のことも聞かれましたが、私は、スポーツが大好きで、一番関心があるユニホームの色と性格の関連をテーマにしており、説明に力が入ったのか、面接官も興味を持って聞いてくださったと思います。また、友人や家族の支えもあり最後まで頑張れたのだと思います。来年からは私も社会人です。気を引き締め全力で頑張ります！

保育実習体験記 保育所実習

子ども発達学科保育専修3年

水野かおる（みずの かおる） 愛知県・同朋高校出身
名古屋市立千代田橋保育園で二回目の実習(3年後期・保育実習Ⅱ)をさせていただきました。今回の実習では5歳児クラスを担当しました。昨年の実習(2年後期・保育実習Ⅰ)では乳児クラスを担当したため、0,1歳から5,6歳ではここまで成長するものなのだ、ということ学びました。乳児クラスではまだ一人で行うことが少なく、生活の援助をすることが多かったです。しかし、5歳になるとたいいのことは一人でできるようになることが分かりました。1週間目、実習生の立場ということもあり、「一人で行える」と分かっているにもかかわらずの援助をしたくなってしまいました。2週間目は、「朝の会をするよ」「おやつの時間になるよ」など、今何をするべきなのか子ども自身が考え行動できるような声掛けを、保育士さんの真似をして実践するよう努力しました。子どもの発達に沿った援助をしなければならないため、どのように発達していくのかを理解しておくことが大切だということを改めて感じました。

私は幼いころからバイオリンを習っていますが、保育士になる上でバイオリンを使うことはないと考えていました。しかし、園長先生から「バイオリンを聞く機会はめったにないので、子どもの前で演奏して欲しい」とお願いされ、全クラスの子どもの前で演奏させていただきました。園で子どもが歌っていた季節の曲「どんぐりころころ」「とんぼのめがね」、そして「勇気100%」「崖の上のポニョ」を演奏させていただきました。普段聞いているピアノの音色とは違う音色に皆喜んで、演奏に合わせて歌ってくれまし



お世話になった先生方と(左から二人目が水野さん)

教育実習体験記 小学校実習

子ども発達学科学校教育専修3年

川島雅也（かわしま まさや） 愛知県・愛知啓成高校出身
教育実習中、子どもとの関わり方が子どもの学校生活を大きく左右させることを学びました。こう感じたのは、私が初めて授業する時は、まだ慣れていないことも多く反省ばかりでしたが、子どもに助けられる場面があり、子どもが授業に集中するのも授業者と子どもとの関わりに大きく影響されるのだなと感じたからです。子どもと良好な関わり方で接することで、悩みの相談や困りごと、学級で起きた問題について隠すことなく教えてくれるようになっていきました。しかし、授業については私が説明するだけの授業になって

しまい、子どもが中心となった授業づくりになっていないと指導教員から初回の助言を頂きました。授業実習をする度に、指導教員から褒められる回数も多くなり、子どもの反応も目に見えて変化してきたので、この仕事に強くやりがいを感じるようになりました。

4週間の教育実習を終えて、私は教師になりたいという気持ちが確かなものになりました。いままで、教師になりたいと何となく考えていたものが具体的なものになり、しっかりと明確な目標を持った教師として、自分の教師としての理想像を描くことが出来ました。実習初日は、緊張していましたが、指導教員の先生と5年生の担任を持つ先生たちのチームワークが非常に上手く機能しており、教師同士の協力も垣間見ることができました。さらに、指導教員以外の先生方に授業実習の前日に模擬授業を受けて頂きました。とても恵まれた環境で教育実習ができたと感じています。また、子どもとの関わりを考える中で、大学の講義で学んだことだけでなく、それ以外にも様々な発見がありました。私にとって非常に充実した教育実習となりました。



教育実習体験記 特別支援学校実習

心理臨床学科障害児心理専修4年

小笠原有美映（おがさわら ゆみえ） 愛知県・吉良高校出身
私は、知的障害児特別支援学校の小学部で障害児教育実習をさせていただきました。

特に、印象的だったのは、食事に関する指導です。小学部の子どもたちは全員、ランチルームで給食を食べていました。給食を嫌がる子どもたちの叫び声や泣き声、それを論ずる先生方の声、騒音の中で給食指導が行われていました。配属された学年は比較的、食事を楽しむことができる子どもが多かったのですが、一人、担任の先生も学年主任の先生も、学部主事の先生も手を焼く子どもがいました。料理されている食事に入っている食材をひとつひとつ別のお皿に取り出して、細かく刻んで、味がしないくらいになるまでおしぼりで拭いてから、手でちぎって、ちびちびと食べていたのです。「はじめは、ポテチと白米しか食べなかった」「小学部に入学後、本当に食べられるようになった」と先生方から事前に伺ってはいたのですが、なかなかイメージには結びついていませんでした。実際に様子を見てやっと、食事指導がかなり難航していることがよくわかりました。

しかし、私が実習させていただいている2週間の間に、この子どもの食事の形が徐々に変わっていきました。少しずつスプーンを使って食べるようになり、いくつかの食材をスプーンに乗せて一度に食べることができるようになったのです。私が出会った当初に比べるとそれはものすごい成長でした。その成長を目の前で見ることができて、言葉に表せないくらい嬉しかったです。

私が見ることができたのはその一部だけでしたが、きっとその子どもはこれからたくさんの食材を食べられるようになって、より豊かな食生活を送ってゆくのだろうと想像して、わくわくしました。

このことを通じて子どもの成長する力をいかに伸ばすことができる環境を作るのが、教師の役目なのだと実感することができました。大学で学んだこと以外にも、現場で学ぶことは本当にたくさんありました。ぜひ現場でたくさんの方の経験を吸収してください。きっと自分自身も成長していると思います。そして、より豊かに子どもを見る目を養うこともできると思います。始まる前は不安になるかもしれませんが、始まったら本当に楽しいですよ。



教職インターンシップ体験記

子ども発達学科学校教育専修2年

森勇登（もり ゆうと） 岐阜県・大垣西高校出身
日本福祉大学で行われている教職インターンシップとは、主に大学2年次に行われるものである。教職インターンシップは、期間は学校によって異なるが、一定期間学校の仕事を手伝い、体験するというものである。私が配属された小学校は野間小学校であり、一般の小学校と比べると比較的少人数の小学校である。また、担当する学年は固定されておらず、日によって担当する学年は異なった。

インターンシップの初日に行った主な活動は、プール掃除である。プール掃除は想像以上に重労働であり、プール本体だけでなく、更衣室、シャワー、トイレなどの掃除も行い、インターンシップに参加している数人で行ったが、とても大変な作業だった。先生方はこれを1日の授業が終わった後や授業の合間に行っているということを考えると、教師の仕事は楽な仕事ではないということを改めて感じた。

私が初めて参加した授業は、3年生の体育でキックベースだった。外は晴天で気温も高かったが、児童の皆は元気いっばりに取り組んでいて、さすが3年生だと感じた。試合では、先生はどちらのチームにも属していなかったが、生徒の目線にたっ

てアドバイスや応援を大きな声でしており、児童はその声を聞きながら真剣かつ楽しそうにキックベースに取り組んでいた。先生と児童という枠組みで固めるのではなく、時には児童と等身大で接したり指導をしたりすることによって良いクラスが出来上がるのだと、この授業に参加して感じた。

野間小学校の4, 5, 6年生は放課後に部活動があり、私はバスケットボール部に参加させてもらった。活動時間は1時間程度しかないにも関わらず、アップ、様々な練習メニュー、試合といった密度の濃い活動であった。一応担当の先生が端で見守っているが、口を出すことはほとんどなく、児童同士でアドバイスし合ったり注意し合ったりするなど、児童が主体的に活動に取り組んでいることに驚きを感じた。

2年生の私は教員免許をまだ取得できておらず、教壇には立てないが、教壇に立てないからこそ分かる教師の仕事や活動などを色々体験することができ、教師の仕事は授業をすることだけではないことも知ることができた。まだ前期のインターンシップの活動しか行っていないが、前期だけでも先生という仕事の大変さ、やりがいなどを感じることができ、改めて教師になりたいという思いが強くなった。後期もインターンシップがあるが、どのような仕事や活動が体験できるのか非常に楽しみである。

わたしたちの授業科目を紹介します

乳幼児の造形演習Ⅰ

子ども発達学科保育専修2年

田中麗華（たなか れいか） 愛知県・惟信高校出身
江村先生の担当される乳幼児の造形演習授業では、主に、子

どもと一緒につくったり遊ぶためにまず自分自身が楽しむことから始まる授業でした。クレヨン・クレパスや色々な道具で絵を描いてみたり、和紙を絵の具で染めてみたり、紙版画をやってみたりなど、どれも幼い頃にやってみたことがあるものが多く、大学生になって改めてやるのは、新鮮な感覚でした。